

2020 年度文部科学省・日本人学校教育環境整備事業

「ICT を活用した教育体制構築に関する実証事業」

講評

評価者： 竹中 章勝

奈良女子大学 非常勤講師

学校名

ハノイ日本人学校

キーワード

学習状況の把握、情報インフラ整備、平時と非常時の継続した授業対応、クラウド活用、ICT を活用した学びの可能性、実践分析

講評

本校の取り組みは本事業のねらいである新型コロナ肺炎流行による休校対応など「非常時における学びの保障」に留まらず平時における ICT 活用したこれからの学びに於いても効果的な環境導入設計及び授業活用・改善の柱を、設置国特性や学校特性を考慮した合理的な設計と運用がなされていることがうかがえます。

報告書には導入から実践内容とそれらの意図の紹介、そして適切な現状分析と今後の課題と展望がわかりやすくまとめられており、他の地域でも今後の参考になる有益な実践報告となっています。

[1] 学習環境デザインと導入整備

まず導入機器選定において、設置国であるベトナムにおいて入手及びメンテナンスが比較的容易に行えるタブレット（本事例では iPad）が選ばれています。これは非常時における素早い調達による環境立ち上げと起こり得る故障対応など安定した運用を行い「継続した学び」を保障する上で重要な観点です。

[2] 授業デザインと見取り

当初は不安を抱えながらも学びの継続のみならず学力保障および今求められている学力観の育成の為に工夫が4つのテーマで報告され、クラウドを活かした教育環境が整備から非常時の遠隔学習と平時も家庭と学校など時間と場所を選ばない学習環境がデザインされ、生徒児童の見取りに重点を置き簡単なリアクションから生徒の発表そして協働学習へとつなぐ取り組みになっており、音楽体育など実技を伴う学びへの挑戦と課題整理等、学習者中心の実践が報告されています。

[3] 運用チェックと改善（情報セキュリティ）

BCP(事業継続プラン)を踏まえた課題と改善策が検討されています。情報システムとして「モノ・人・ルール」のバランスよく挙げられています。そして児童生徒と教員の操作活用リテラシーとモラルなどスキルアップ観点も示され継続した学びが展開していく上でも参考になる課題と展望がまとめられています。